



「いつでも **ち**かくの(近くの)

のうそっちゅう (脳卒中) **せん**もんびょういん (専門病院)」

当院の基本方針です。今回はこの意味について説明します。

脳卒中とは脳梗塞、脳出血、くも膜下出血の総称です。脳血管障害とも言われ、脳の血管に何らかの問題が起こって脳の障害をきたす病気を言います。脳梗塞は脳の血管が詰まる病気です。脳出血、くも膜下出血は脳に出血をする病気です。病気の治療には大きく分けてお薬で治療を行う内科的治療と、手術を行う外科的治療に分けられますが、脳卒中の治療はどちらも行われます。

くも膜下出血であればほとんどの場合に動脈瘤の処置を行う手術が必要になりますし、脳出血も出血量が多ければ手術が必要になることがあります。出血性の病気は外科的治療の可能性を常に考えなければいけません。



脳梗塞は血管が詰まる病気ですので、血液をサラサラにするお薬で治療を行う内科的治療がほとんどです。その通りです。間違っていない。しかしながら診断から治療まで、難しい判断を迫られるのはくも膜下出血や脳出血ではなく脳梗塞なのです。

まず脳梗塞の方が診断が難しい場合が多いです。くも膜下出血や脳出血は頭部CT スキャンを行えばすぐに分かります。出血していればCT で血液は白く写るからです。脳梗塞はCT ではかなり時間が経過しないと分から

ず、MRIの方がよく分かります。しかしながら、脳梗塞発症から1～2時間程度ではMRIでも分からないことが多くあります。血管が詰まりかかっている（一過性脳虚血発作）、もしくは詰まったばかりではMRIでも分かりません。そのような時は麻痺や言語障害などの症状の出方、症状が出る前後の状況、既往歴やその治療状況など様々な情報をもとに、脳の解剖や病態に関する知識、経験を用いて判断しなければならず、そこが脳外科医の腕の見せどころになります。

また、治療法の選択も脳梗塞の方が難しいと言えます。血液をサラサラにする点滴はそれ以上血管が詰まらないようにすることはできますが、すでに詰まったところに対しては効果がありません。脳梗塞は脳への血液の供給が不足している状態です。脳梗塞になりかけている部分を助けるためには、少しでも早く血流を再開する必要があります。発症から4時間半以内であれば詰まった血栓を溶かす薬の投与が可能です（血栓溶解療法）。しかしながら血栓溶解療法は詰まった血管の再開通後に脳出血を起こして手術が必要になることもあります。外科的治療ではカテーテルによって詰まった血栓を取り除くこと（血栓回収療法）をおこなったり、それでもダメな場合は低下した血流を補うためにバイパス手術を行う場合もあります。早く治療を行えば完全麻痺が元通りに戻ることもあるのです。日本脳卒中学会の



【回収された血栓】

指針では「脳神経外科的処置が必要な場合、迅速に脳外科医が対応できる体制があること」が推奨されています。

脳梗塞の治療は時間との勝負です。時間が早ければ早いほど治療成績は上がります。脳卒中を疑う場合はなるべく早く、専門の医療機関を受診してください。それが当院のキャッチフレーズが意味するところでは

脳梗塞は早ければ早いほど治療効果が期待できます！